

平成27年6月13日

平成27年度帰国報告会資料

準全日制補習授業校の教育

平成25・26年度派遣
シニア派遣 末永 和彦

派遣先 インド共和国 タミルナドゥ州 チェンナイ補習授業校

はじめに：チェンナイ補習授業校は、インド半島南東部ベンガル湾沿いに位置し、南インドタミルナドゥ州都チェンナイ市の南側、新市街区域にある。かつてはマドラスと呼ばれ、イギリス植民地時代は「東インド会社」があり東西交易の拠点港町として栄えていた。

現在、植民地時代の名称マドラスから、1996年にタミル語のチェンナイへと改称した人口480万を数えるインド4大都市のひとつであり、インドIT産業の拠点の一つとして近年大きな注目を集めている都市である。

ここタミルナドゥ州は、北インドのアーリア系の文化とは異なり、インド半島の先住民族「ドラヴィタ人」が支配してきた地域である。そのため古来のヒンドゥ文化が最も色濃く残り、南インド特有の文化が数多くある。世界遺産に登録されている遺跡も多い。

1年間を通して高温多湿の熱帯気候であり、雨季と乾季と暑季の3つに分けられる。4～6月の暑季は気温が40℃以上になることも珍しくない。

チェンナイ補習授業校に通う児童生徒は、自動車産業に携わる駐在員を中心に、商社、インフラ整備関連などの企業が多く、関東周辺に居住する保護者の子女が多い。

今回の報告は、校長としてチェンナイ補習授業校に派遣され、準全日制補習授業校の制度的な改革に取り組んだものを要約したものである。



1、補習授業校について

○目的

全日制の日本人学校とは異なり、現地校や国際学校に通う日本人子女に対し、国内の小・中学校の一部の教科について授業を行う在外教育施設である。授業内容は、国語、算数・数学を中心に、準全日制では理科、社会を加えた授業が、日本国内で使用されている教科書を用いて行われ、教育水準の維持を図るためにその基礎基本的なことを教える。

○2つのタイプの補習授業校

- ・週末補習授業校（203校）：通常、土曜日・日曜日等の現地の学校において授業のない日や放課後等の授業のない時間に実施する補習授業校。年間授業日数35日以上。
- ・準全日制補習授業校（4校）：通常、平日現地の学校に通い授業のない放課後等に授業を実施する補習授業校。週5日・年間授業日数175日以上。（本校が該当する）

2、補習授業校への日本国政府の支援

○助成事業

校舎借り上げ等の支援（外務省）、教材整備事業（文部科学省）、現地採用教員給与等の補助（外務省）、安全対策事業（外務省・文部科学省）、海外子女教育振興財団を通じての教材整備や安全対策事業 等

○教育支援

指導計画等の作成（文部科学省）、教材教具の提示（文部科学省）、在外日本人子女用教科書の買い上げ（文部科学省）、教員派遣（文部科学省）※在籍100名以上に1人派遣、400名を超えると1名増、以下100名ごとに1名追加、準全日は在籍10名以上を基本とする

巡回指導（文部科学省、日本人学校）※日本人学校より派遣のいない補習校への教育指導支援（授業指導、学校経営等）

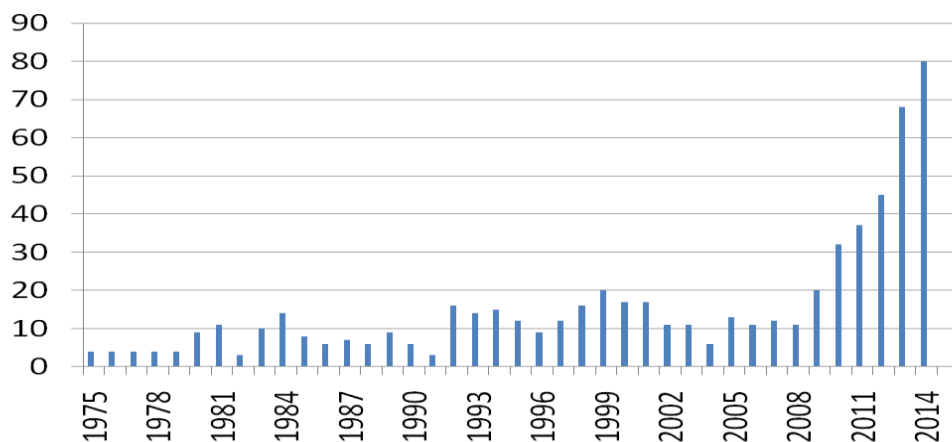
チェンナイ補習授業校（準全日制補習授業校）

1、児童生徒数の推移

平成26年度在籍数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	合計
男	2	5	6	5	5	5	3	3	0	34
女	9	12	8	5	5	5	5	2	4	55
計	11	17	14	10	10	10	8	5	4	89

Japanese School



※2010年（平成22年）以降急激な児童生徒数の増加がある。

年間の傾向は駐在員の異動関係で、5月が最少在籍数、9月が概ね最大数となる。

それは現地国際学校の新学期（8月）にあわせて編入、国際学校の学年末の5月に転出するためである。

2、教職員数

- ・校長（派遣）・現地採用教員6名（東京1、神奈川3、大分1、愛知1）・事務員1名
※前年度までは現地採用教員5名それ以前は3～4名。事務員はインド人で英語のみ。

3、運営委員会

- ・運営委員長（伊藤忠商事）、以下12名（教員2名含む）
※校長は運営委員会には所属せず評議員として参加（教育信託団体の役員として位置付）

4、チェンナイ補習授業校の概要（学校要覧抜粋）

（1）沿革

1975年(S50)	4月	マドラス日本語補習教室として保護者宅持ち回りで開設
1980年(S55)	4月	マドラス補習授業校（準全日校）として派遣教員を配置
2003年(H15)	7月	借用校をアメリカンスクールとして補習授業校を移転
2004年(H16)	3月	教育信託団体登録を行い「チェンナイ補習授業校」とする
2012年(H24)	11月	アメリカンスクール内プレハブ校舎を専用に借用する
2013年(H25)	4月	教育信託団体再登録
2014年(H26)	4月	中学部土曜授業開始
2015年(H27)	1月	校章制定

（2）教育目標（学校要覧抜粋）

『ひとみ輝き 自ら学ぶチェンナイ補習授業校』

—生きる力を育み 地球を舞台にはばたく子の育成—

- ① 基礎・基本の学力の定着
- ② 国際社会に生きる感性豊かな心の育成
- ③ 健康で心身ともにたくましい子の育成

（3）基本方針（抜粋）

- ①日本帰国を見据えた基礎学力の維持・定着。

国語、算数・数学を中心とした基礎基本的な知識・技能を身に付けさせる。思考力・判断力・表現力を高めるための授業の改善を図る。「自力解決学習」の定着を目指す。

- ②「生きる力」をグローバルな視点で考えさせる。【アイデンティティの確立】

日本人としての誇りを持ち、礼儀正しく、世界に通用する国際感覚をもった児童・生徒の育成をめざす。

- ③「日本式の教育方法で学ぶ」日本では当たり前なことを当たり前でできる子の育成。

『凡事徹底』。正しい姿勢、返事やあいさつ、聞く態度など日本の学校生活や授業で必要最低限なことの定着を目指し指導の徹底を図る。

（4）主な教育内容

- ①日本の学習指導要領に従った基幹教科教育を行う。
- ②日本の文化、学校文化を体験させ礼儀、ルール、躾の理解と習慣化を身に付けさせる。
- ③国語（日本語）の読み書き話す能力を強化する。
- ④社会科で日本のことを知り、算数・数学、理科では日本の学び方を身に付けさせる。



校章：平成27年1月制定
（インドの椰子、日本の稲をマドラスチェックで囲んでいる）



5、補習授業校としての現状と課題解決

(1) 急激な児童生徒数の増加に伴う教育環境改革の必要性

- ・4年ほど前までは 児童生徒数20名前後で教員も派遣含めて3～4名で指導する複式授業が主であった→**単式学級実施（教員6名＝小学部担任制、中学部＝担任、副担任制）**で小学部は平日授業、中学部は土曜日授業とした。
- ・集団活動の意識が低調であった→**集会活動での企画運営**を中学部、高学年に任せる。
- ・借用校の教室が思うように使えない状態が続いていた→**前年度末にプレハブ教室が専用**
- ・**教室増加の要望が必要であった** →借用できることで**日本式教室にした。**

(2) 児童生徒の学習意識の改革の必要性

- ・補習授業校での教育が教科書よりドリルやプリント学習に終始していた→**年間学習指導計画を使いやすく編集しなおした。**
- ・子どもたちへの指導は現地採用教員の裁量に任されていた→**師範授業・教室訪問で互いに授業参観。**
- ・国際学校終了後の補習授業校のため、ややもすると日本語で話ができる場所との意識での学習参加であった→**週計画を提示し学習予定や宿題を出すようにした。**



(3) 現地採用教員の資質の向上

- ・教科書の使い方や指導の仕方が自前流でも可であった→**補習校教員用のマニュアル作成。**
- ・プリント学習で100点を目指す授業が多かった→**授業の仕方の研修や師範授業で研修。**
- ・学級経営が子どもたちにおもねっている風潮がみられた→**補習校教員用読本の活用。**
- ・国語の指導が単に読み書きに終始している→**静岡大学杉崎准教授との研究実践（別紙）**

おわりに：これらの改革には、運営委員会の協力を得るため「帰国後の適応」をキーワードに、教員の指導力向上のための研究実践や、採用時に「教員免許優先」等の要望を聞いていただいた。

また、教員には週案を作成する意味で「毎週学級通信＝学習計画表」を各家庭に配布するようにさせ、そのため年間指導計画をわかりやすい形態に変えて提示してきた。

児童生徒には、当初は不評である宿題を出すことを各担任に伝え、各家庭にも必要性を理解させ（補習校の意味）概ね半年で定着し、それをきっかけに授業をよく聞き、学習態度が落ち着いてきて、学校らしい雰囲気が出てきたと保護者からも好評を得た。

補習授業校とは、日本の教育ができない場所で「家庭教育の補習のために集団で学ぶ機会を提供する学校」である。「**家庭が第2の教室**」という意識を保護者が持ち、基本は補習授業校で学ぶ。復習・応用、発展学習は家庭で行い学習の定着を図る。という役割をしっかりと認識させることが大切である。補習授業校は、親子が・教員が『**共に学ぶ学校**』なのである。



<資料>

◎チェンナイ補習授業校の教育計画（抜粋）

※小学部は平日（月～金）5日間授業日（180日）・中学部は土曜日授業日（40日）

1. 日課表

小学部 ※45分授業

登校 15:45
 始めの会 15:45～15:50
 1時間目 15:50～16:35
 休み時間 16:35～16:45
 2時間目 16:45～17:30
 帰りの会 17:30～17:35
 下校 17:35

中学部 ※50分授業

登校 8:40
 朝の会 8:40～8:45
 1時間目 8:45～9:35
 2時間目 9:40～10:30
 3時間目 10:40～11:30
 4時間目 11:35～12:25
 昼食 12:25～13:10
 5時間目 13:10～14:00
 6時間目 14:05～14:55
 帰りの会 14:55～15:05
 下校 15:05

2 教育課程

(1) 小学部（学年担任・前後期制）

①時間割

	月		火		水		木		金	
	1校時	2校時	1校時	2校時	1校時	2校時	1校時	2校時	1校時	2校時
小1	国語	国語	算数	国語	国語	国語	算数	国語	国語	国/生
小2	国語	国語	算数	国語	国語	算数	算数	国語	国語	国/生
小3	理科	国語	国語	算数	社会	国語	国語	算数	国語	算数
小4	理科	国語	国語	算数	社会	国語	国語	算数	国語	算数
小5	理科	国語	国語	算数	社会	国語	国語	算数	算数	社/理
小6	理科	国語	国語	算数	社会	国語	国語	算数	算数	社/理

②扱い時数（本校/標準時数）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	243/306	206/315	161.5/245	161.5/245	131.5/175	131.5/175
算数	68/136	102.5/175	98/175	98/175	98/175	98/175
社会	生活 15/102	生活 15/105	35/70	35/90	51/100	51/105
理科			29/90	29/105	43/105	43/105

③標準時数への割合

- ・国語 低79%.65% 中65%、 高75%
- ・算数 低50%.58% 中56%、 高56%
- ・社/生 低14% 中50%.38% 高51%
- ・理科 — 中32%.27% 高40%

(2) 中学部(教科担任制・通年)

①時間割

	1	2	3	4	5	6
	教科	教科	教科	教科	教科	教科
中1	数学	数学	国語	国語	理科	社会
中2	国語	国語	数学	数学	社会	理科
中3	数学	数学	国語	国語	理科	社会

②扱い時間数(本校/標準時数)

	国語	数学	社会	理科
中1	112/140	53/140	16/105	12/105
中2	111/140	40/105	13/105	29/140
中3	81/105	52/140	29/140	29/140

③

標準時数との割合

- ・国語 中1=80% 中2=79% 中3=77%
- ・数学 中1=38% 中2=38% 中3=37%
- ・社会 中1=15% 中2=12% 中3=20%
- ・理科 中1=11% 中2=20% 中3=20%

3 特別日課(学校行事の日)

(1) 行事のみの日は授業なし

儀式=始業式・入学式、保護者会、修了式、卒業式

その他の行事=社会科見学(社会科)・学習発表(国語科)・運動会(体育科)(但し教科扱い)

(2) 行事と授業日の日(土曜日課で行う)

授業参観・懇談、PTA 総会等行事の際は土曜日課時程で行う

小学部=朝2時間(授業参観1・懇談・総会等0.5~1、下校指導0.5)※下校10:30

※小学部は45分授業のため第2校時終了が10:20となる

中学部=午前2時間授業(10:40~、授業参観1・懇談・総会0.5~1、)午後2時間授業

※中学部の懇談等は小学部の懇談に引き続き行う場合もある(第2校時の場合)